



モユク・カムイ91

NO.

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。Octover 2016

ASAHIYAMAZON NEWS あさひやまどうぶつえしニュース

もくじ

ぼくは動物大使 その52 北海道の生態系を支える シロザケ	1.2
特集 旭山の高齢動物たち	3.4
飼育研究レポート アムールトラ繁殖の取り組み①～2015年編～	5
動物園裏側紹介 夏休みだよ!!サマースクール編	6
主なできごと 編集後記・飼育動物数	7



シロザケ

• *Oncorhynchus keta*

シロザケ

Oncorhynchus keta

サケ目 サケ科 サケ属

時期などによって呼び名が変わり、アキアジ・トキシラズ・メヂカ・ケイジなどと呼ばれます、すべてシロザケです。

北太平洋全域・北極海の一部に分布しており、日本近海では日本海・オホーツク海に分布しています。

寿命は平均4年ほどですが、中には7年ほど生きるものもいます。

縄文時代からシロザケを獲っていた痕跡が確認されていて、当時から食料とされていました。140年前から人工孵化した稚魚を放流しており、現在も資源確保のため続けられています。

秋には生まれた川に戻って産卵することが知られています。近年では旭川市内を流れる河川にも遡上してくる様になり、秋に観察することが出来ます。

分布



ぼくは動物



ぼくは動物 北海道の生態系を

大使 その52 支える～シロザケ

体

- 全長／約50~90cm
- 体重／約2~5kg

母川回帰

シロザケは広い海から生まれた川に戻ってきます。どのようにして元の川へ戻ってこられるのか完全には解明されていません。地磁気を利用している説もありますが、最近の研究結果によると川の水の匂いで判別している説が有力となっています。

オスとメス の違い

川に遡上する前まではオスもメスも外観に違いはありません。遡上する頃にはオスの口先は伸びて曲がり、頭も大きく尖っています。メスの頭は小さく丸みを帯びています。脂鰭もオスの方が大きく、メスの方が小さいです。

産卵床

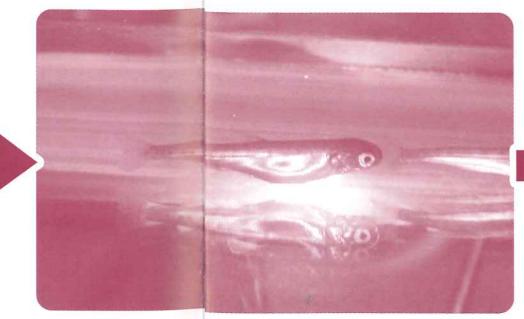
サケの一生

シロザケは初冬頃（11月～翌年3月）に川で生まれ、2ヶ月ほど経った初春頃（1月～5月頃）に川を下って海へ出て行きます。

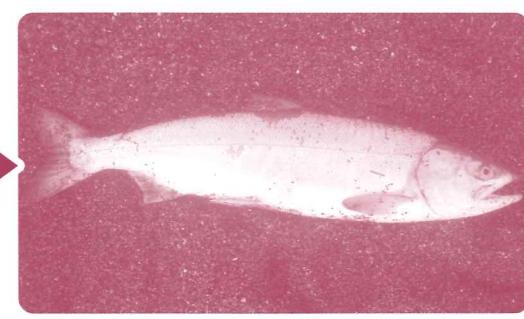
日本の川で生まれたシロザケの稚魚たちは、日本海やオホーツク海、ベーリング海やアラスカ湾などを3～6年ほど回遊し成長していきます。



孵化直後



川から海へ



海を回遊し大きく生育

生態系を支えるサケ

サケは川で生まれ、一度は海に出ますが、また生まれた川に戻ってきます。産卵後、力尽きたサケたちは、森の中の動物たち（ヒグマやキタキツネなど）が冬を過ごすための貴重な食料源となります。そしてその糞や食べ残しは森の養分となり、森が豊かになると、川から海へ養分が行き渡り、プランクトンを増やし、海も豊かになります。

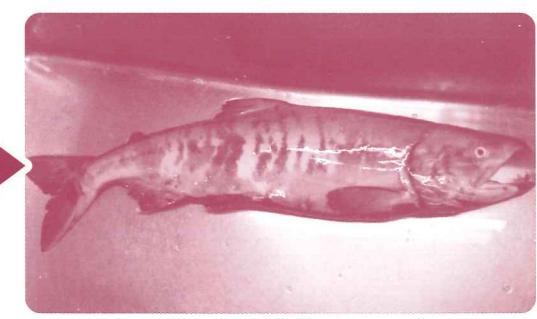


脂鰭

背鰭と尾鰭の中間にもう一つ鰭があり、脂鰭といいます。鮭の仲間に見られる特徴です。

になります。そして産卵に適した場所を探し、卵を産む場所（産卵床）を尾鰭で掘り産卵します。そしてその生涯を、生まれた川で終えるまで産卵床を守ります。

こうして次の命へ繋がっていくのです。



婚姻色がでて、生まれた川へ

特集

旭山の高齢動物たち

アムールトラにはじまり、ユキヒヨウ、レッサーパンダ、テナガザル、トナカイと出産ラッシュの2016年の旭山動物園。しかし、旭山は赤ちゃん動物だけではありません、長生きな動物たちも忘れてはいけません。今回の特集では旭山に暮らす高齢動物たちを紹介します。

チンパンジー(オス)・キー

寿命: およそ40~50年(飼育下)



1968年8月30日 多摩動物公園生まれ
1975年2月10日 おびひろ動物園より来園

アムールトラ(メス)・のん

寿命: およそ15~20年(飼育下)



1996年4月1日 天王寺動物園生まれ
1996年6月28日 天王寺動物園より来園

「動物の年齢を人間に例えると何歳ですか?」とよく聞かれます。しかし、人間の寿命が国や地域によって違うことからも、単純に比較できるものではありません。また、人と違い、小学校入学や就職・定年といった区切りがあるわけでもなく、動物たちは彼らなりのライフステージを歩んでいます。そんな中で、老していく過程で変化する外見や行動を通して、彼らの生き方を感じてもらえるように、私たち飼育係は精一杯のケアをしながら、彼らを見つめていきたいと考えています。

ライオン(オス)・ライラ

寿命: およそ15~20年(飼育下)



1996年4月14日 徳山動物園生まれ

1997年4月24日 徳山動物園より来園

ライオン(メス)・レイラ

1995年6月5日 アドベンチャーワールド生まれ

1997年4月24日 アドベンチャーワールドより来園

先代のベル・ララの後を継いで、ライラとレイラのペアはもうじゅう館完成に合わせて来園しました。その後、9頭の子供が成育し、他の動物園へと旅立っています。最後の子(アキラ・釧路市動物園)がいなくなつからは、のんびり2頭での生活となっています。数年前にライラが毛玉がお腹の中で詰まる毛球症を患いましたが、現在は再発に注意しながら飼育しています。寒い冬は外に出ることをいやがるようになり、展示できない日もありますが、これからも彼らのペースに合わせての飼育になります。

ワピチ(メス)・さち

寿命: およそ15~20年(飼育下)



1985年 群馬サファリパーク生まれ

1987年12月29日 姫路セントラルパークより来園

トナカイ・ワピチ舎に暮らすワピチのさち。旭山では数多く出産し、7頭が生育しました。長らく1頭での暮らしでしたが、2015年にトナカイが新たにやってきましたからは、同居となっています。最初は活発に動くトナカイとの距離感が心配でしたが、今ではお互い気にせず暮らしています。筋肉も衰え、床ずれなども出来てしましましたが、できる限りのケアをしていきます。

まだまだいるよ、高齢動物



レッサーパンダ(オス)・ノノ
2002年7月15日生まれ
寿命: およそ15~18年(飼育下)



レッサーパンダ(メス)・栄
2001年7月24日生まれ
寿命: およそ15~18年(飼育下)



ポニー(オス)・ミクロ
1987年5月2日生まれ
寿命: およそ25~30年



ニホンザル(メス)・シロザル
1988年4月12日生まれ
寿命: およそ20~30年(飼育下)



飼育研究レポート

アムールトラ繁殖の取り組み①~2015年編~



2015年4月から、もうじゅう館担当になりました。その半年前、2014年9月にアムールトラのオス・キリルとメス・ザリアがアメリカから来園していました。

日本国内では新たな血統となるアムールトラのペア。旭山にとっても、トラの繁殖は初めての事となります。彼らを繁殖に導くことが、もうじゅう館担当としての大目標でした。しかしこの2頭、なかなか神経質な個体で、「朝、放飼場に出て、夕方、寝室に帰ってくる」という、飼育上最低限の動き、いわゆる「出入り」を覚えるまでに、数か月を要する個体でした。

キリルとザリアの同居も、繁殖のためというより「ザリアになんとか出入りを教えるために、先に出入りを覚えたキリルと同居させてみよう」という目的で始まったのです。そしてようやく2頭とも通常に展示できるようになった直後の2015年5月25日、なんと2頭は交尾てしまいました。繁殖目的で来園した2頭ですから、これは嬉しいことなのですが、まだ環境に慣れたばかりのザリアが妊娠してしまったことに不安もありました。

トラは出産しても、環境に慣れていないと育児放棄してしまったり、産んだ子を食べてしまうこともあります。トラの妊娠期間は90~110日。「それまでに産室を準備せねば!」担当者の僕にタイムリミットが与えられました。6月~7月は居残り作業で産室を作りました。しかしザリアにとっては、やっと慣れてきた環境がまた変わり、工具の作業音も気になる。せっかく覚えた寝室への出入りが、また不安定になりました。かと言って、産室を用意しないわけにもいかない。産室準備を強行するしかありませんでした。

7月末には産室が完成し、9月の出産予定日まで約一か月、産室に慣れさせる期間を取ることはできました。あとは祈るのみ…!

そして迎えた9月9日。朝、もうじゅう館に入ると、トラの子の鳴き声が聞こえます。「生まれている!」でも、ザリアが子育てる動きは見られませ

んでした。獣医を呼び、ザリアを隣の部屋に移動させて産室を確認すると、4頭の子を発見しました。しかし1頭はすでに死亡、残る3頭は胎盤がついたままで、ザリアが全く育児をしていないことがわかりました。

「育児放棄」。最悪の予想が的中してしまいました。やはりザリアを環境に慣れさせる時間が足りなかったのです。すぐに人工哺育に切り替え、トラの子3頭の「育児生活」が始まりました。3時間おきに、猫用ミルクを哺乳瓶で与えます。早朝は獣医、深夜は担当者と交替でおこないました。しかし努力もむなしく、生後12日目までに、子は3頭とも死んでしまいました。



残念ながら、子を生かすことはできませんでした…。

「もうじゅう館担当一年目でアムールトラ繁殖に成功!」という目標に向かって全力を尽くしましたが、その夢はもろくも崩れ去りました。

2015年のアムールトラ繁殖は、自然哺育(親が子育てする)にもできず、人工哺育も失敗、という惨めな結果に終わったのです。<②へつづく>

(もうじゅう館担当:大西 敏文)

動物園裏側紹介

夏休みだよ!サマースクール編

旭川市立
どうぶつせん

第41回サマースクール

41th Summer School

2016.8.1-3



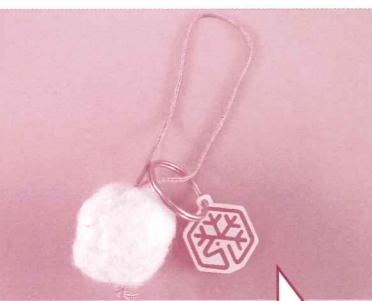
班 学校名 学年 名前

今年で41回目を迎えた、夏の定番イベント「サマースクール」。小学5~6年生の参加者が3日間、飼育展示スタッフが普段行っている仕事を体験するイベントです。今回は、「サマースクール」を徹底紹介します!

まずは開校式からスタート。みんなとても緊張した顔をしています。でも大丈夫。すぐに友達ができて、大騒ぎになります。



そして園内見学へ。普段は入ることのできない、動物たちの寝室にどきどき、わくわく。



続いて飼育実習。動物たちの健康状態を観察したり、寝室の掃除、ご飯作りなどを行います。写真は、カピバラプールをごしごし掃除中。



サマースクールのしおり。中にある動物日誌に、飼育作業を行った動物たちの様子を書き込みます。



今年の動物教室では、ヒツジの毛でストラップ作りを行いました。完成したストラップに、オリジナル動物園ロゴキーホルダーを付けて完成!



サマースクール担当 佐賀 真一さんよりメッセージ

旭川市内はもちろんのこと、旭川市外、北海道外のたくさんの子どもたちに参加してもらいたい本当にありがとうございます。飼育展示スタッフ総動員で、子どもたちに様々な角度から動物のことを伝えました。その中で子どもたちが感じたこと、すごいと思ったことが看板になります。今年も子どもたちの渾身の看板ができあがりました。園内各所に掲示してますので、ぜひご覧ください。

主なできごと

6月1日 トナカイ(メス)「和香」が1頭出産、旭山動物園では12年ぶりの繁殖



10日 エゾシカ「ペロ」が出産

12日 クマタカ ふ化(7月13日死亡)
エゾシカ「ペペ子」が出産

13日 旭山動物園が、第1回日本サービス大賞で「地方創生大臣賞」受賞

19日 旭山動物園くらぶ主催「あったかとーく」

20日 恩返しプロジェクトが行われている現地ボルネオ島(マレーシア)にて、寄贈された軽トラック3台の引き渡しと贈呈式

23日 ブラッザグエノンのメス「もも」、いしかわ動物園より来園

24日 飼育勉強会

25日 カピバラのメス「ゴンベ」10才、死亡
キングペンギンふ化(6月27日死亡)
障がい者夜間特別開園

28日 レッサーパンダの渝渝(ユーユー)が、2頭出産

7月1日 第49回 開園記念日

動物慰靈祭

3日 自然観察会「よくばり自然体験」

7日 コープさっぽろ様より、「ホッキョクグマ応援プロジェクト」協賛金贈呈式

9日 夕暮れの撮影教室

7月11日 シロテテナガザル、「モンロー」出産



16日 チゴハヤブサふ化(7月18日死亡)

20日 コノハズク ふ化

21日 発泡スチロール協会様より、ホッキョクグマにお魚のプレゼント

27日 キングペンギン1羽、死亡

28日 飼育勉強会

31日 国昭建設様より、氷のプレゼント

8月1日 第41回サマースクール(3日まで)

7日 自然観察会「虫と友だちになろう」

8日 教員のための博物館の日

9日 夜の動物園(15日まで)



10日 キヨクイチロジ様より、氷のプレゼント

15日 アムールトラ・ユキヒョウの命名式



編集後記

今年の夏は、暑さあり、滅多に旭川に来ない台風が上陸といろいろと大変でした。動物園に台風の被害はありませんでしたが、周辺の川の堤防が決壊するなど、改めて自然の猛威を実感させられました。

旭山動物園は7月1日に開園49周年を迎えました。来年は50周年という節目の年となります。動物園もモユクカムイも更なる進化を遂げられるよう、スタッフ一同頑張りたいと思います。

モユク・カムイ No.91 平成28年10月31日

●発行所／旭川市旭山動物園

〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104

●発行／坂東 元 ●表紙絵：中田 真一

●編集／丸 一喜・高橋 伸広・大内 章広・鈴木 悠太・中村 亮平・佐賀 真一

●印刷／株須田製版

〒070-8045 旭川市忠和5条8丁目3-1 ☎0166-62-2266

飼育動物数

2016年8月末現在

●哺乳類 46種・270点

●鳥類 57種・326点

●は虫類 5種・ 17点

●合計 108種・613点